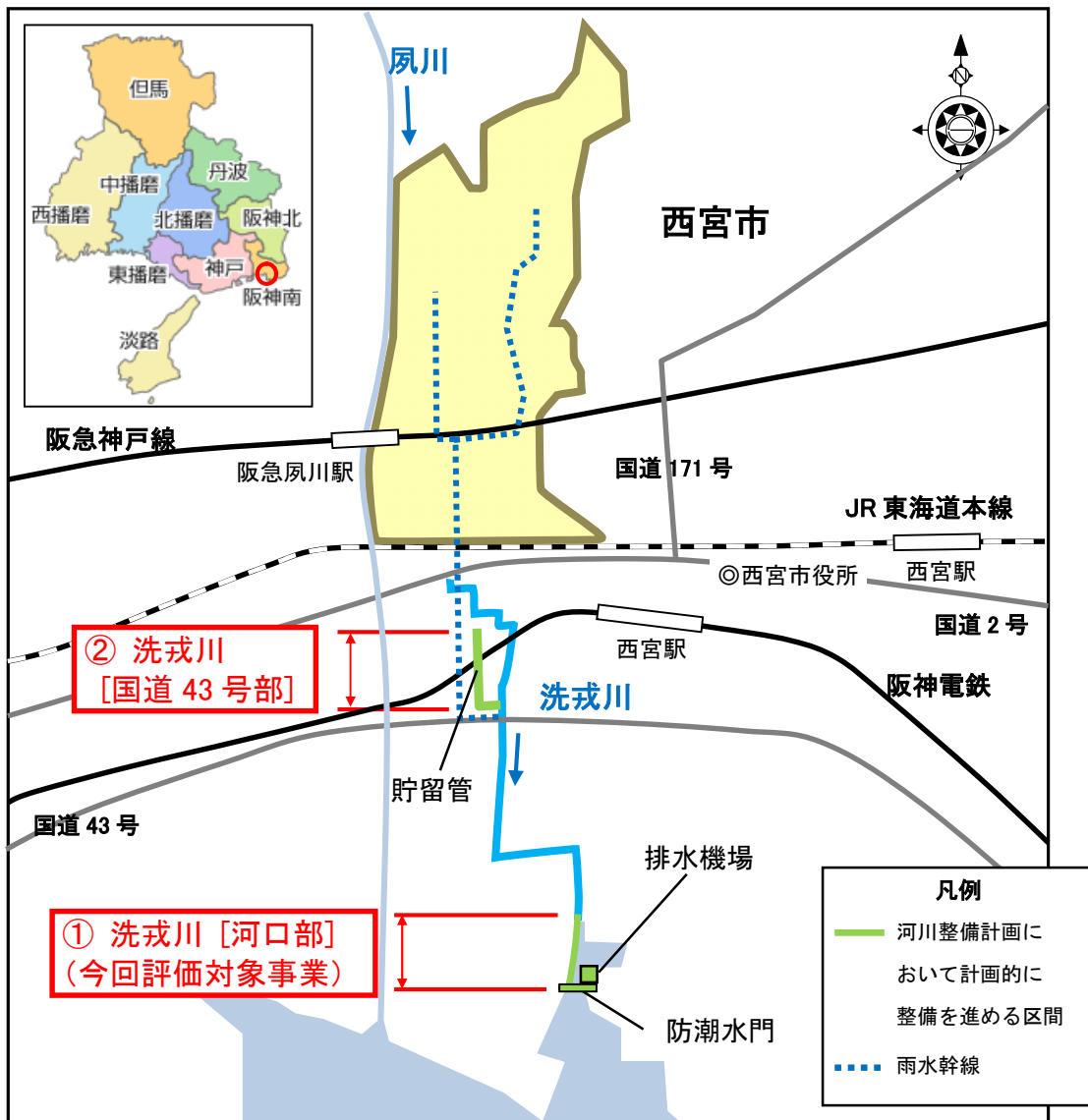


令和3年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 勝野 真 (維持防災班長 竹中 修平)	内線	4408 (4439)
事業種目	河川事業	水系名	洗戎川水系		
事業目的					
洗戎川水系では、平成28年5月に策定された河川整備計画に基づき、計画的に高潮及び津波対策等を実施し、地域住民の安全・安心を確保する。					
洗戎川水系における「計画的に整備を進める区間」					
本川					
	区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
①	洗戎川 [河口部] (防潮水門・排水機場)	0.3km	高潮及び津波時の浸水被害の防止	事業中	H28再事業評価
②	洗戎川 [国道43号線] (貯留管)	0.3km	20年に1回程度の降雨で発生する洪水を安全に流下〔前浜：16m ³ /s〕	未事業化	—

洗戎川水系洗戎川 河川整備計画 全体位置図

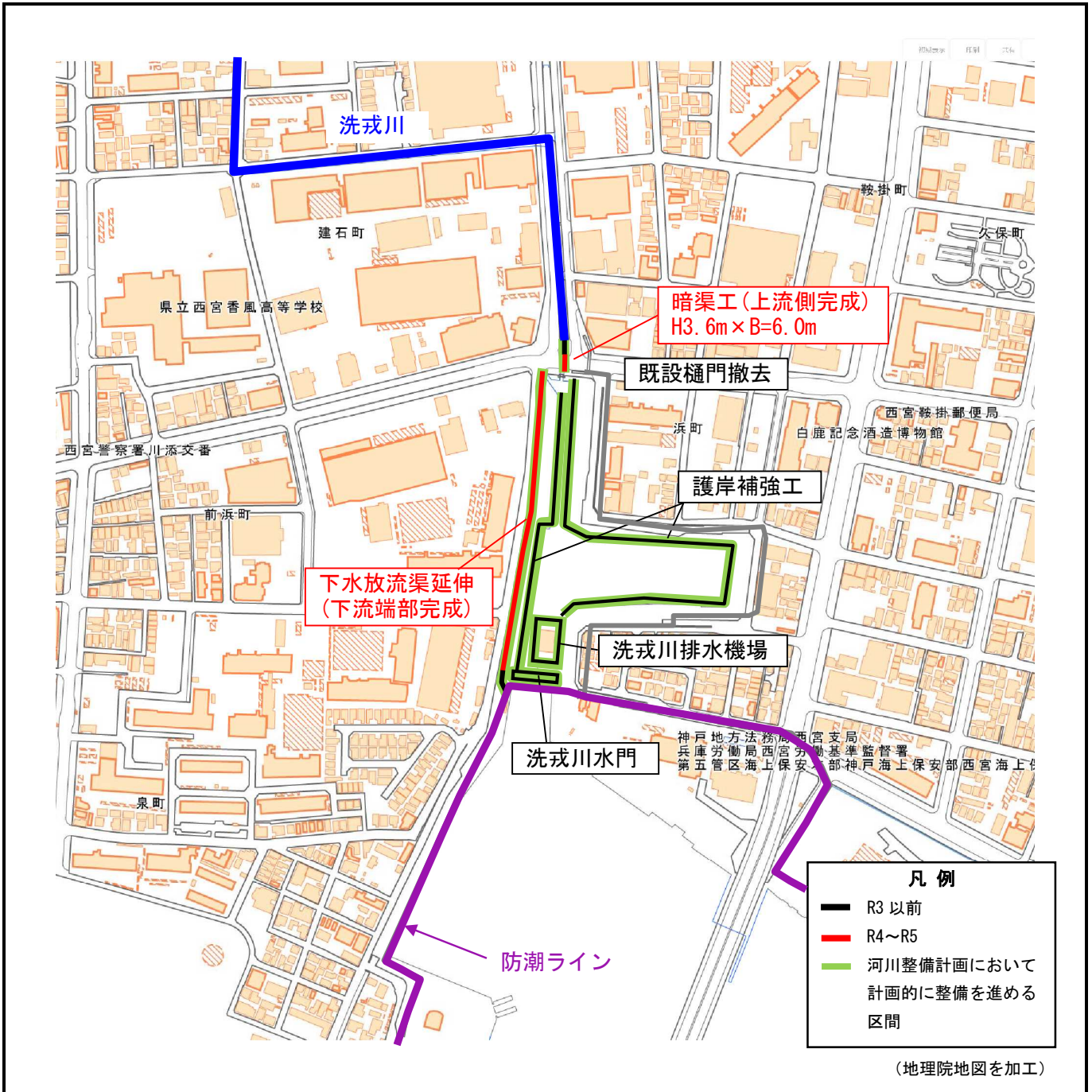


洗戎川 河口部】

事業概要および進捗状況			今回評価内容 (): 前回評価時点				
工区	事業区間	整備内容		全体事業費	進捗率	残事業費	完成 予定 年度
① 洗戎川 [河口部]	西宮市 前浜町～浜町	防潮水門(H27完成) 排水機場(H27完成) 暗渠工 他	事業費	36 億円 (36 億円)	75% (58%)	9億円 (15億円)	R5 (R3)
			内用補	6.1 億円 (6.1 億円)	100% (0%)	6.1億円 (6.1億円)	

事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	高潮対策の早期整備の要望がある他、東日本大震災後、津波対策に対する強い要望がある。 【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 下記の理由等により、完了予定年度を令和5年度まで2年間延伸する。 ① 平成29年に施行された西宮市宮水保全条例に基づき宮水委員会と協議した結果、下水放流渠延伸工事の工法変更が必要となったことから、事業期間を延伸する。		
進捗状況	防潮水門、排水機場が完了し、現在は暗渠工及び、下水放流渠の延伸工事に着手している。		
評価視点	評価結果の説明		
審査会意見及び対応方針(H28年度策定報告)	【審査会意見】 意見なし	【対応方針】 -	
(1) 必要性	① 高度に都市化した西宮市の密集市街地、臨港線等を浸水被害から防御するため、当該事業により早期に治水安全度を向上させ、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する必要がある。 ② 過去の浸水実績 ・S25(1950)年9月(ジェーン台風)[床上4,645戸、床下7,975戸] ※高潮浸水被害 ・H11(1999)年6月(梅雨前線)[床上5戸、床下7戸] ・H11(1999)年9月(集中豪雨)[床上616戸、床下205戸] ③ 洗戎川河口部には、高潮発生時に河川の流水を排水する高潮排水機場が未整備であったことから、防潮水門及び排水機場を約300m海側に新設(ともにH27完成)したが、供用開始するためには、西宮市の前浜ポンプ場(雨水排水)の流末を防潮水門の沖側まで延伸する必要がある。 ④ 臨港線との交差部の暗渠(BOX形状)の流下能力は、計画流量11m ³ /sに対し50%程度と低いことから拡幅する必要がある。 ⑤ 津波防災インフラ整備計画において、重点整備地区に位置づけられている。		
(2) 有効性・効率性 (事業執行環境)	① 費用便益比:B/C=4.1(河川整備計画の内、津波・高潮対策の費用便益比) ② 防潮水門、高潮排水機場を既存防潮樋門設置位置より下流に整備し、河道内貯留効果を見込むことにより、ポンプ規模を縮小している。 ③ 津波による浸水被害を軽減する。 ④ 事業促進に対する地元の協力体制ならびに関係機関との協議・調整が進捗しており、事業執行環境は整っている。		
(3) 環境適合性	①護岸の補強については、多孔質の捨石工法を採用し、魚類等の生育環境に配慮している。 ②へドロの除去等を行い、河川環境の改善を図る。		
(4) 優先性	高度に都市化した西宮市において、高潮対策の効果を早期に発現させるため、事業の優先性は高い。		
の再評価結果	継続	左の理由	当該水系における高潮対策の必要性は事業採択時と変わっておらず、併せて、近い将来の発生が懸念される南海トラフ地震において想定される津波による浸水被害の軽減を図るため、引き続き事業を継続する必要がある。

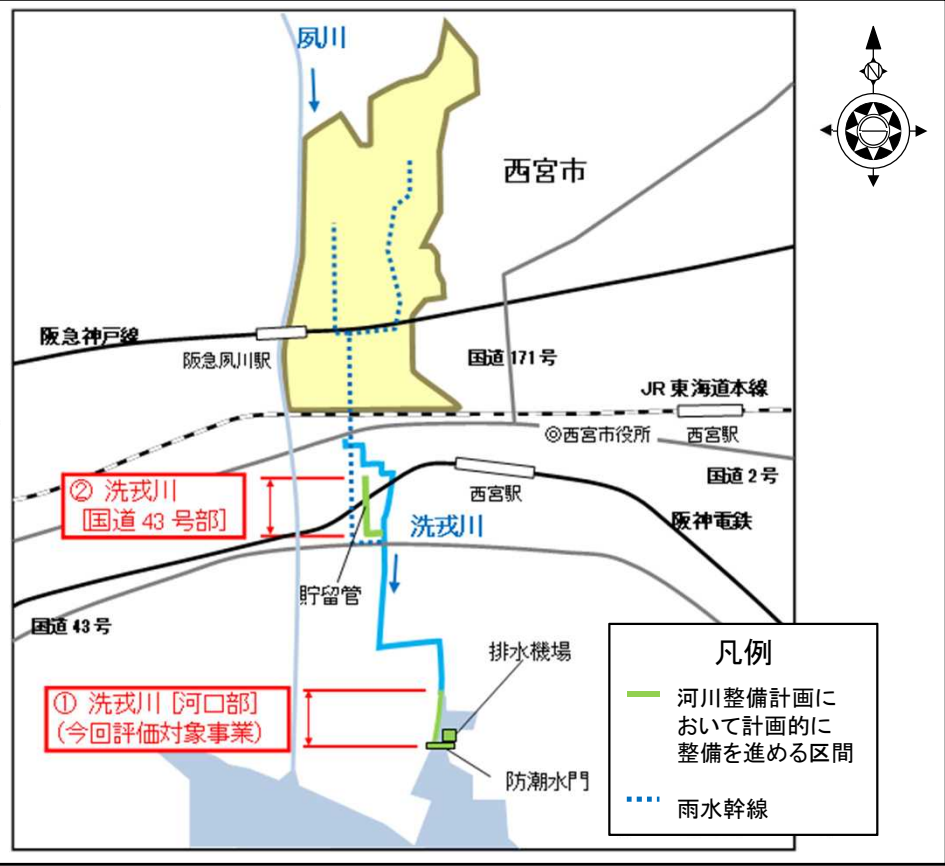
洗戎川整備概要図



工区	河川整備計画全体 H19 (2007) ~ R5 (2023)	事業採択から R3 (2021) まで	今後 2 年間 R4 (2022) ~ R5 (2023)
① 洗戎川[河口部]	【事業費=36 億円】 ・整備延長：322m ・整備概要： 高潮排水機場、 防潮水門、 暗渠工、 護岸補強工、 下水放流渠延伸	【事業費=27 億円】 ・防潮水門 ・高潮排水機場、 護岸補強工 ・暗渠工 津波被害の防止	【事業費=9 億円】 ・暗渠工 ・下水放流渠延伸 高潮被害の防止

河川事業 二級河川洗戎川水系洗戎川(継続:再評価[第2回])

位置図



目的

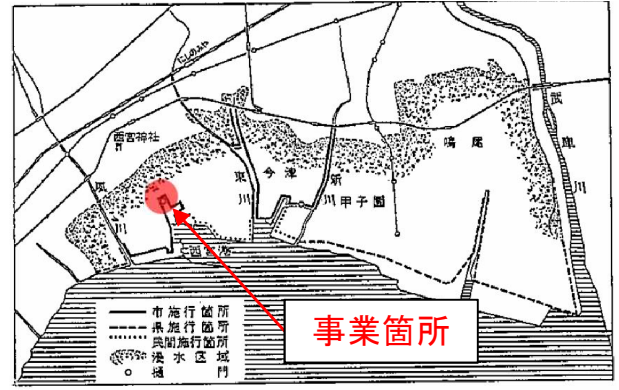
河川整備計画(H28.5)に基づく、治水安全度の向上
 20年に1回程度の降雨で発生する洪水から人命、資産を守る
 また、高潮及び津波時の浸水被害の防止を図る

事業概要

事業区間: 西宮市前浜町～浜町
 総事業費: 36億円
 内用地補償費: 6.1億円
 事業期間: 平成19(2007)年～令和5(2023)年
 事業概要: 高潮排水機場、防潮水門、暗渠工、
 護岸補強工、下水放流渠延伸
 延長: 322m
 費用便益比B/C: 4.1
 (河川整備計画の内、津波・高潮対策の費用便益比)

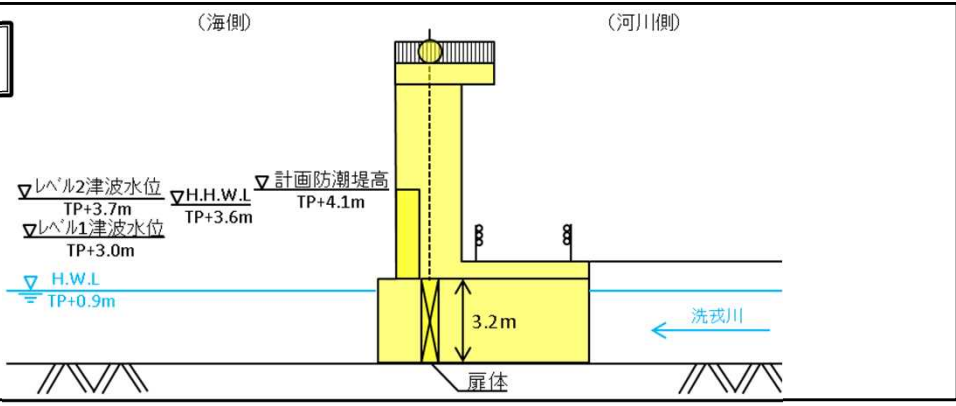
浸水実績

浸水実績(昭和25年9月 ジェーン台風)

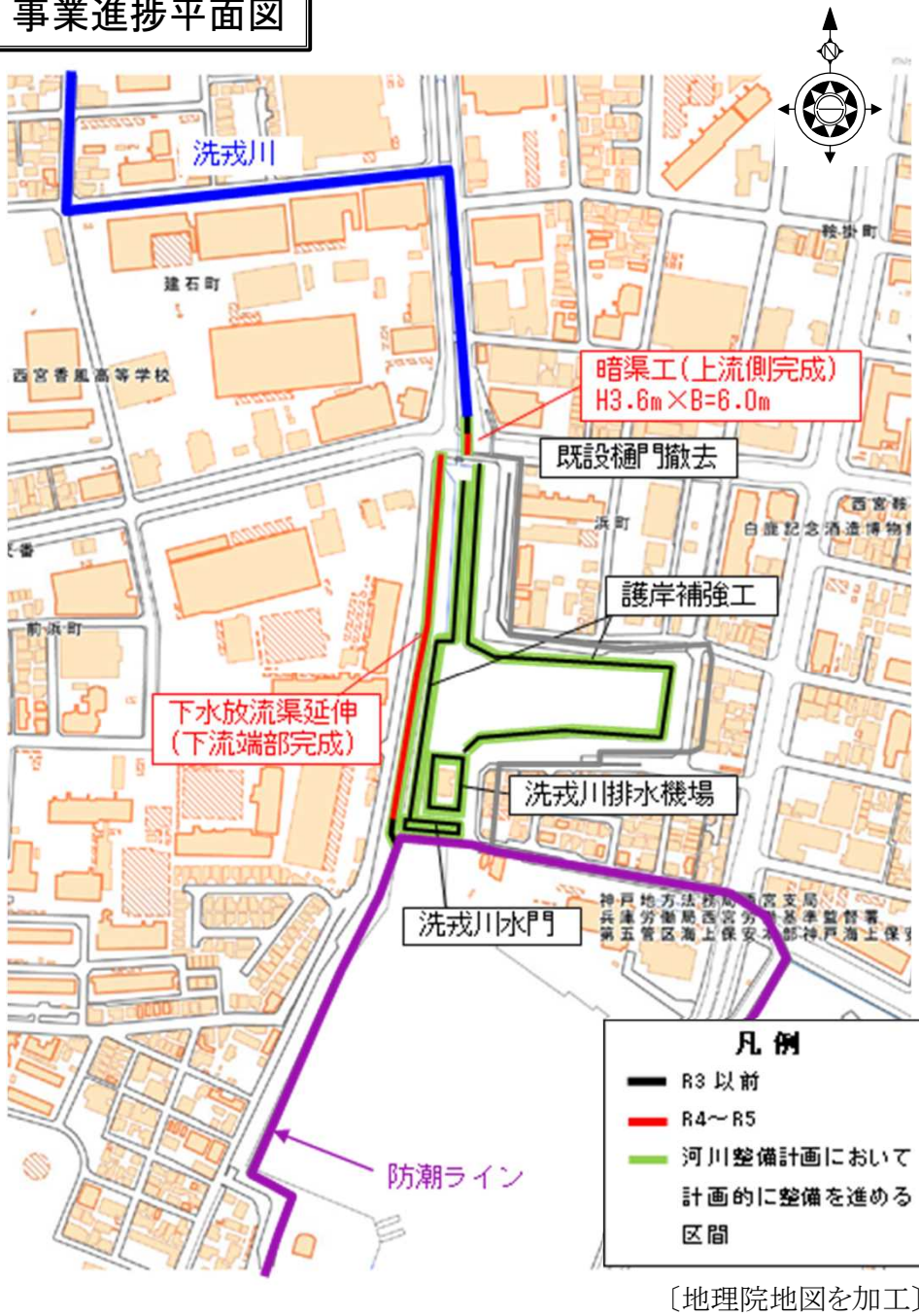


(出典: 西宮市史)

水門縦断図



事業進捗平面図



凡例

- R3 以前
- R4~R5
- 河川整備計画において計画的に整備を進める区間

[地理院地図を加工]

現況写真

完成区間(水門)



完成区間(排水機場)



残事業区間



残事業区間



工程表

■ : 前回計画
■ : 実施・計画

種別	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31, R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023
調査	■	■	■														
水門				■	■				■	■							
排水機場							■	■	■	■							
護岸補強								■	■								
下水放流渠延伸														■	■	■	■
暗渠工											■	■	■	■	■	■	■

事業の有効性・効率性

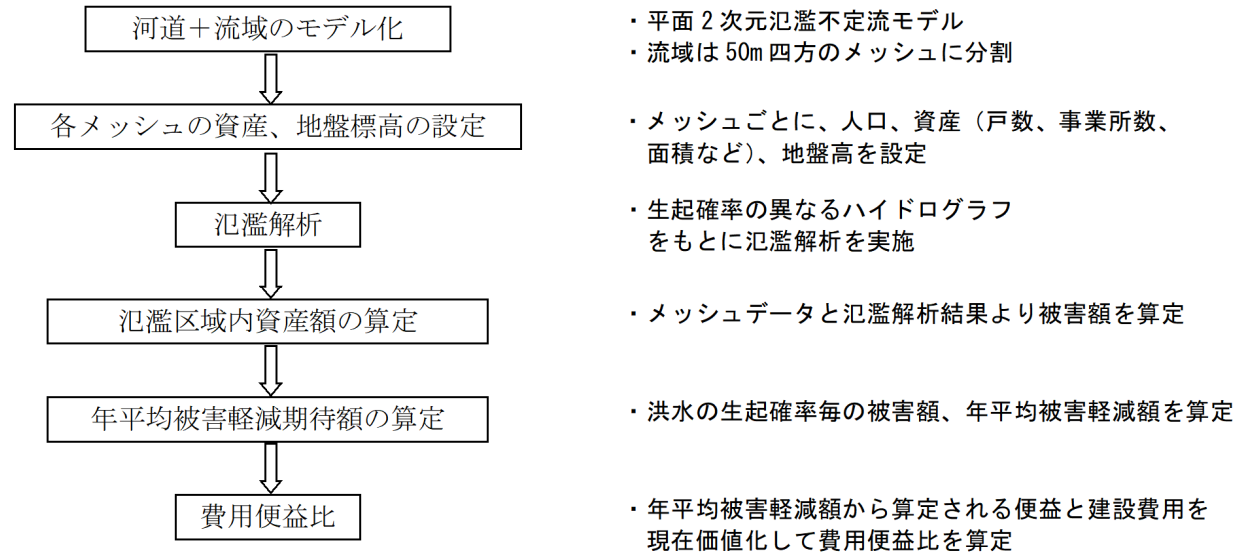
(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 [<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・ 農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用)]

1) 便益 = 治水事業を実施することによる
被害軽減期待額」を現在価値化
被害額 = 一般資産被害 + 農作物被害
+ 公共土木施設等被害
+ 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



② 費用便益比(B/C)算出根拠

B (便益)		C (費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
160億円	計画規模の降雨（高潮時）に対して、浸水面積28ha、浸水1,258世帯の解消	39億円	36億円	3億円	4.1

※河川整備計画の内、津波・高潮対策の費用便益比

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減
	ライフラインの停止による波及被害の軽減
	水害廃棄物の発生の軽減
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出
	親水空間の整備・景観への配慮

該当する事業内容等	
○	・ 浸水区域内3,154人、災害時要援護者数866人を解消 ・ 最大孤立者391人(避難率0%)、235人(避難率40%)、78人(避難率80%)を解消
○	・ 市道臨港線、西89号線の交通途絶を解消(交通量12,176台/日)
○	・ 社会福祉施設(高齢者総合福祉施設)1件の浸水を解消
○	・ 電力の使用不能者63人、固定電話の使用不能者63人を解消
○	・ 水害廃棄物推定量:269t ⇒処理費用:752万円を軽減
○	・ 護岸の補強については、多孔質の捨石工法を採用し、魚類等の生育環境に配慮する。 ・ ヘドロ等の除去及び覆砂を行い河川環境の改善を図る。
—	

(3) 地域からの要望等

要望状況等	・ 東日本大震災後、地域住民からは高潮・津波対策の早期推進についてさらに要望が高まっている。
-------	--

参考;事業の変遷

S9(1934)年:室戸台風(高潮浸水被害)
 S25(1950)年:ジェーン台風(高潮浸水被害)
 S36(1961)年:第二室戸台風(高潮浸水被害)
 H11(1999)年:梅雨前線による洪水(6月)
 集中豪雨による洪水(9月)
 H19(2007)年:高潮・津波対策事業着手
 H20(2008)年:河川整備計画策定(当初)
 H28(2016)年:河川整備計画策定(変更)